

平成20年度第7回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

- 1 日時 平成20年11月5日(水)13:01~14:16
- 2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室
- 3 出席者
委員：角山学長(議長)、黒田委員、ミレンコフ委員、佐川委員、セドゥーキン委員、
岡委員、太田委員、オア委員、宮崎委員、過委員、兼本委員、佐々木委員、趙
委員、新城委員
計14名
委員以外：岩瀬理事、その他事務局職員
- 4 議事録署名人 佐川委員、セドゥーキン委員
- 5 議事
(1) 議題
A 教員選考委員会の設置について(文化研究センター)
角山学長より、配付資料に基づき説明があった。
特に質問等なく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。
B 先端情報科学研究センター(仮称)構想について
黒田委員より、配布資料に基づき説明があった。
委員より、会津大学における先端科学の研究に対し、国の経済的支援を受けることはできるのかという質問があり、会津大学は、すでに情報科学研究の分野において国からの期待を受けており、国の支援を受け、日本国内の情報科学研究におけるリーダーシップをとることは十分可能であるとの説明があった。
また、宇宙情報科学クラスターにおいて採用する教員の候補者がすべて日本人であることについて質問があり、宇宙航空研究開発機構(JAXA)で外国人研究員の採用を想定していないためであるとの回答があり、将来的に外国人研究員が採用されることは考えられるが、十数年にわたって同一人物が担うポジションである分野別責任者(PI: Principal Investigator)については、他大学においても外国人のPIは存在しないとの説明があった。
また、センターの運営資金について質問があり、チームによる研究を行い、積極的に外部資金の獲得を目指していくとの回答があった。これに対して、外部資金が獲得できなかった場合にクラスターの解散もありうるのかという質問があり、それもあろうとの回答があった。
その他特に質問等なく、先端情報科学研究センター(仮称)の構想を進めていくことについて挙手により賛否が問われ、賛成多数により承認された。

- C 教員選考委員会の設置について（先端情報科学研究センター（仮称））
角山学長より、配付資料に基づき説明があった。
特に質問等なく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。
- D 中期目標（の変更）についての知事に対して述べる意見について
片平総務課長より、配布資料に基づき説明があった。
説明についての質問等はなく、福島県知事からの中期目標変更案に対して、会津大学として「意見なし」と回答することについて、挙手により賛否が問われ、賛成多数により承認された。

6 その他

A 学外委員からの意見

本日出席した学外委員より下記の意見があった。

先端情報科学研究センターについて、特定の科学分野に特化することなく、さまざまな分野の科学を一般の方々にも知ってもらえるような「科学館」的な役割を担うことを期待したい。

平成20年度第8回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

- 1 日時 平成20年11月26日(水) 15:03~15:21
- 2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室
- 3 出席者
委員：角山学長(議長)、黒田委員、ミレンコフ委員、セドゥーキン委員、太田委員、
オア委員、宮崎委員、過委員、兼本委員、佐々木委員、趙委員 計11名
委員以外：岩瀬理事、杉山教授、その他事務局職員
- 4 議事録署名人 宮崎委員、オア委員
- 5 議事
(1) 議題
A 選任教員の選考について
情報システム学部門の上級准教授候補であるコンスタンチン・マルコフ氏について、
教員選考委員会世話人の杉山教授より、配付資料に基づき説明があった。
その後委員による投票が行われ、投票の結果、出席委員の5分の3以上の信任があ
ったため、コンスタンチン・マルコフ氏を選考することとなった。
B 会津大学大学院履修規程の一部改正について
大学院教務委員会委員長のミレンコフ委員より、配付資料に基づき説明があった。
特に質問等はなく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認され
た。

平成20年度第9回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

- 1 日時 平成20年12月17日(水) 15:02~16:29
- 2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室
- 3 出席者
委員：角山学長(議長)、黒田委員、ミレンコフ委員、佐川委員、セドゥーキン委員、
岡委員、太田委員、オア委員、宮崎委員、兼本委員、佐々木委員、趙委員 計
12名
委員以外：岩瀬理事、程教授、魏教授、出村准教授、その他事務局職員
- 4 議事録署名人 佐々木委員、趙委員
- 5 議事

(2) 議題

A 選任教員の選考について

まず、先端情報科学研究センターの准教授候補である小川佳子(おがわ・よしこ)氏、北里宏平(きたざと・こうへい)氏及び本田親寿(ほんだ・ちかとし)氏について、世話人の出村准教授より、配付資料に基づき説明があった。

委員より、3名の候補者は授業を担当することが可能かという質問があり、プログラミング演習科目及び実験科目の指導が可能であるとの回答があった。

次に、産学イノベーションセンターの助教候補である渡辺孝信(わたなべ・たかのぶ)氏について、選考委員会委員長の程教授より、配付資料に基づき説明があった。

委員より、IT日新館に対する補助金交付が終了した後に、候補者を他の講座等に移籍させる予定があるのかという質問があり、UBIC所属の教員は、3年間の期限付き採用であるが、再任が可能であり、候補者には授業のほかにUBICの企画運営に関わる業務に長く携わってくれることを期待しているとの回答があった。

次に、情報システム学部門(コンピュータ産業学講座)の准教授候補である大藤建太(おおふじ・けんた)氏について、世話人の兼本委員より、配付資料に基づき説明があった。

この件について、特に質問等はなかった。

次に、情報システム学部門(コンピュータグラフィック学講座)の准教授候補であるピエール・アラン・ファヨール氏について、選考委員会委員のミレンコフ委員より、配付資料に基づき説明があった。

この件について、特に質問等はなかった。

次に、情報システム学部門(生体情報学講座)の准教授候補である朱欣(しゅ・きん)氏について、世話人の魏教授より、配付資料に基づき説明があった。

委員より、候補者は資料に記載のある分野以外のことも指導できるとのことである

が、そのことについて後で確認しておく必要があるとの意見があった。

その後委員による投票が行われ、投票の結果、候補者7名いずれも出席委員の5分の3以上の信任があったため、7名全員を選考することとなった。

B 会津大学学部・博士前期課程5年一貫教育プログラムについて

教務委員会委員長の兼本委員より、配付資料に基づき説明があった。

委員より、学部と博士前期課程を5年で修了した後、他大学の大学院に入学しようとする際に、年齢制限にかかることはないのだろうかという質問があり、すでに修士号を取得しているので問題はないと思われるとの回答があった。

その他質問等はなく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

(3) 報告事項

A 平成22年度入学者選抜方法について

教務委員会委員長の兼本委員より、配付資料に基づき説明があった。

委員より、今後の選抜方法について、地元の優秀な学生を確保するために、地元高校の指定校推薦入学枠を設けることを検討してはどうかとの意見や、推薦Aの受験資格について、評定平均4.0以上という現在の基準を下げることにより、出願しやすい環境を作ればよいのではないかとの意見があった。また、高校生に対する会津大学のPR方法について、角山学長や現役会津大学生によるPR活動を行うべきであるとの意見や、会津大学Webサイトの充実が必要であるとの意見があった。

6 その他

A 会津大学教職員のためのFD講演会について

学生部長の兼本委員より、配布資料に基づき説明があった。